
勇者が死んだ日

TEAR

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者が死んだ日

【Nコード】

N5422BA

【作者名】

TEAR

【あらすじ】

――僕は死ぬよ。

何よりも大切なキミのために。

僕は、死ぬよ。

僕が死ぬことで、何よりも大切なキミと、キミの生きるこの世界を救えるのなら。

…… なんだってしよう、なんだってやってやろう。そうすることでしか、僕はキミに返せない。僕がキミからもらった全て。キミがくれた全てを、倍にして返すよ。僕がいなくなった後の、キミの未来のために。僕の命を、キミに捧げる。

僕は、死ぬよ。

死ぬのは怖い。怖くてたまらない。生きることの素晴らしさを、知ってしまったから。

キミが、教えてくれたから。

僕は臆病者だから、ここまで来ているのに、怯えているんだ。キミの笑顔を見ることが出来ないのが、キミの声を聞くことが出来ないのが、キミのぬくもりに触れることが出来ないのが、どうしようもなく怖くて。

だから、キミがくれた、胸に灯る暖かな光にすがりついて、塔を

登る。脚の震えが止まらない。体は、本能は、登りたくない、死にたくないと言っている。でも、登らなきゃ。登らないと死ねないんだ。全てを終わらせる剣が、最上階にあるのだから。

キミは今、どんな顔をしているのだろう。泣いて怒っているだろうね。キミにどうしても言えなかった。キミの泣き顔をみたら、決心が一瞬で崩れてしまいそうだから。どんなに僕を憎んでも構わない。僕の弱さが、キミを傷つけたから。

……ごめん。それしか言えない。謝りたくても、キミの元には戻れないよ。

キミの目の前には、何が映っているだろう。どこまでも青い、空だろうか。僕がいる、塔だろうか。僕からは、何も、なにもみえない……。

――ああ、僕の命はあと少しだ。見える。全てを終わらせる剣が。再生の光が。あの剣が、僕の命を奪い、キミの世界を再生する。

僕の命が消えたとき、僕の命と引き換えに「死の病」は跡形も無く消える。何百年も前に、僕のように召喚された「魔王」によって作られたその病。病の呪いをとくには、同じく召喚された僕の命が必要なんだ。これが、「勇者」である僕の最期の使命。

最初に王に伝えられた時は、信じたくなかった。死ぬためにこの世界に来たなんて、そんなの虚しすぎる。

でも、僕は気づいたんだ。キミのためならば、死んでも構わないと。安っぽい言葉しか言えないけれど、これが僕の素直な想い。どうか、僕の想いに気づいて。苦しいときに、いつも僕の気持ちに寄り添ってくれたキミなら、気づいてくれると信じているから。

そろそろ、最期の決着をつけよう。呪われた病に、僕の人生に。

うやうやしく飾られている剣に近づく。僕の足音だけが最上階にこだました。ここに存在しているのは、僕と剣だけ。

そして、孤独な魔王の哀れな魂。

魔王。僕が終わらせてやる。あんたの孤独な魂の暴走を。あんたの想いがうんだ「呪い」をといてやろうじゃないか。あんと同じ、異世界から来た僕が。終止符を、打とうじゃないか。

剣の冷え冷えとした柄を握る。装飾が一つもないその剣を自分の心臓へと向けた。

――手が震える。剣を持つのも困難なほどに。今のいまになって、僕は生きたいのだと、実感した。

濁流のように、想いが駆け巡る。生きたい。生きたい。生きたい。……。
願っても、願っても、僕を取り巻く世界は変わらない。生きたい。そして、キミに会いたい。会いたいよ。会って伝えたい。

ふと気づくと、僕は泣いていた。涙が溢れ出て、止まらなかった。剣は震えていた。それでも、剣は手放せなかった。

キミの笑顔が浮かんでは消えて行く。

――キミの声が、聞こえる。

笑い声が、聞こえる。

不意に、キミの笑顔がゆがんだ。顔をくしゃくしゃにして、泣きそうにゆがむ。

泣かないで。僕が、キミを護るから。キミの世界を護るから。お願いだから、泣かないで。僕の命をかけて護るから。

剣を握り直す。震えは、収まっていた。そのまま、一気に突き刺す。

「……っ」

――体が、傾いでいく。焦点が定まらない。

けれど、不思議なことに、痛みはない。

だから、どうか安心して。

こわくはないから。

そして、

キミの幸せを、いつまでも祈っているから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5422ba/>

勇者が死んだ日

2012年1月14日22時51分発行